

履修番号17

- 問題 1 運転者が危険を認めてからブレーキをかけ、ブレーキが実際に効き始めるまでには通常1秒くらいかかると言われているが、訓練すれば0.1～0.2秒くらいまで短縮できる。
- 問題 2 運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に走る距離を空走距離という。
- 問題 3 車を運転中、速度が速くなるほど視力は低下し、近くのものよりも遠くのものの方が見えにくくなる。
- 問題 4 前方注視距離は、交通状況や道路状況等によって多少異なるが、時速60キロメートル以下の速度ではおおむねその速度の数字に、3倍の読みのメートルの距離をとるのがよい。
- 問題 5 運転中は、一点だけに長く気を取られる事なく、全体に対して広く、同じ程度の注意を払うことが必要である。
- 問題 6 暗さに眼が慣れることを暗順応、明るさに眼が慣れることを明順応といい、暗順応の方が時間がかかる。
- 問題 7 明るさが急に変わると視力は一時急激に低下するので、トンネルに入る前や出るときは速度を落として走行する必要がある。
- 問題 8 反応時間の間に走行する距離は、制動距離と同じである。
- 問題 9 夜間は、周囲が暗くて見えにくいいため、一般に速度が遅く感じる。
- 問題 10 車の速度が速くなるほど、運転者の確認できる視野は狭くなり、前方注視点が遠くなる。
- 問題 11 アルコールは確実に脳の働きを鈍らせるので、お酒に自信があっても、飲酒運転は絶対にしてはならない。
- 問題 12 かぜ薬や頭痛薬などは麻薬ではないので、飲んで運転してもまったく影響はない。
- 問題 13 運転中の疲労による影響は、手と足に最も強く現れ、他の交通の妨げにならない場所に車を止め、外に出て軽い体操をした方がよい。
- 問題 14 過労運転を避けるためには前もってゆとりのある運転計画をたて、長距離運転になる場合は少なくとも3時間に1回は休息をとるようにする。
- 問題 15 道に迷ったので、カーナビを注視しながら運転した。
- 問題 16 疲れているときや病気のとき、心配事があるときなどは、注意力が散漫になったり、判断力が衰えたりするのでこのようなときは、運転を控えるか体の調子を整えてから運転するのがよい。
- 問題 17 色彩を完全に確認できるのは、左右それぞれ35度付近である。
- 問題 18 一般に年をとるほど反応時間は長くなる。
- 問題 19 長時間単調な運転を続けると眠くなるので、眠気を防ぐために窓を開けて新鮮な空気をいれ、少しでも眠くなったら安全な場所に車を止めて、休息をとるようにするとよい。
- 問題 20 眠気をもよおすような薬などを服用したときは、車の運転をしてはならない。
- 問題 21 交差点で右折するときは、対向車線を直進してくる二輪車の距離や速度を見誤ることがあるので注意する。
- 問題 22 二輪車は車体が小さいため、四輪車の運転者から実際の速度より遅く感じられたり、距離も遠く離れているように見られたりする。
- 問題 23 同じ距離であっても、大型車は実際よりも近くに、小型車は遠くに感じる。
- 問題 24 運転中に少しでも眠くなったら、安全な場所に車を止め、休憩をとることが必要である。
- 問題 25 人間の速度の判断は必ずしも正確ではないので、速度計を見て確認するのがよい。
- 問題 26 注視点は、できるだけ車のすぐ前を見て、あまり遠くを見ないほうがよい。
- 問題 27 運転中は注意力を集中するため、あまり広く見渡すよりも一点を注視するのがよい。
- 問題 28 トンネルに出入りする場合は、視力が著しく低下するので、目が慣れるまでは速度を落として運転する。
- 問題 29 反応時間の3段階は、反射時間・踏み変え時間・踏み込み時間である。
- 問題 30 お酒を飲むと一時的に緊張が解けて気分が高揚するので、頭がさえたように錯覚をすることもある。
- 問題 31 同じ速度で走っていても、夜間は昼間よりも速度が遅く感じる。
- 問題 32 運転者が危険を認めてからブレーキをかけても、ブレーキがきき始めるまでには1秒くらいかかるので、速度が速くなるほど危険を避けにくくなる。
- 問題 33 反応時間の長さは、年齢とは無関係である。
- 問題 34 反応時間とは、運転者が危険を発見したときからブレーキがきき始めるまでにかかる時間で、心身の状態などにより長くなることがある。
- 問題 35 運転中の疲労による影響は、目に最も強く現れ、疲労の度合いが高まるにつれて見落としや見間違いが多くなる。
- 問題 36 自分で酔っていないと思う程度の少量の酒を飲んだときは、車を運転してもよい。
- 問題 37 夜間、大型車の後ろについて運転中、眠気を感じたら、前車のブレーキ灯を見ながら運転すると安全である。
- 問題 38 薬はからだの調子をよくするはたらきがあるので、どのような薬を飲んでも運転には支障がない。
- 問題 39 疲れると視力が低下し、障害物を見落とししたり、見間違えたりするので、運転を中止して休息をとるようにする。

- 問題 40 うんてんちゆう ねむけ かん 運転中、眠気を感じたときは、窓を開け新鮮な空気を入れたり、車から降りて体操するなどして気分転換をする。
- 問題 41 くるま そくど はや うんてんしゃ かくにん しや せま とお ちか み 車の速度が速くなるほど、運転者の確認できる視野は狭くなり、遠くはぼやけ、近くはよく見えるようになる。
- 問題 42 うんてんしゃ つか ほんのう じかん えいきょう ていし きょり なが 運転者が疲れていても、反応時間に影響することはないので、停止距離が長くなることはない。
- 問題 43 くるま うんてん そくど あか へんか め み こと ひろう み 車を運転しているとき、速度や明るさの変化で目が見えにくくなる事はあるが、疲労から見えにくくなることはない。
- 問題 44 うんてんしゃ しんり じょうたい けんこう じょうたい うんてん おお えいきょう あた こうつう じこ げんいん 運転者の心理状態や健康状態は、運転に大きな影響を与え、交通事故の原因になることがある。
- 問題 45 さけ の りょう たしやう にんち はんだんりよく にぶ ちゆういりよく ていか くるま うんてん 酒を飲むと、量の多少にかかわらず認知や判断力が鈍り、注意力が低下するので、車の運転をしてはならない。
- 問題 46 きぶん ふあんてい つか からだ ちやうし わる じこ お うんてん 気分が不安定なときや、ひどく疲れていて体の調子が悪いときは、事故を起こしやすいので運転をひかえたほうがよい。
- 問題 47 じどうしゃ うんてん にんち はんだん そうさ たいせつ もっと たいせつ そうさ こうつう じこ げんいん たいはん し 自動車の運転は認知・判断・操作が大切であるが、最も大切なのは操作で、交通事故の原因の大半を占めている。
- 問題 48 しきさい かんぜん かくにん しや せま しんごう ひやうしき み みまちが 色彩を完全に確認できる視野は狭いので、信号や標識はよく見ないと見間違えるおそれがある。
- 問題 49 せいし うご み しりよく へんか 静止しているときと、動きながらものを見るときとでは、視力に変化はない。
- 問題 50 あか きゆう か しりよく いちじ てき ていか 明るさが急に変わると視力は一時的に低下する。

履修番号17 解答



もんだい 問題 1	×		もんだい 問題 26	×	
もんだい 問題 2	○		もんだい 問題 27	×	
もんだい 問題 3	×		もんだい 問題 28	○	
もんだい 問題 4	○		もんだい 問題 29	○	
もんだい 問題 5	○		もんだい 問題 30	○	
もんだい 問題 6	○		もんだい 問題 31	○	
もんだい 問題 7	○		もんだい 問題 32	○	
もんだい 問題 8	×		もんだい 問題 33	×	
もんだい 問題 9	○		もんだい 問題 34	○	
もんだい 問題 10	○		もんだい 問題 35	○	
もんだい 問題 11	○		もんだい 問題 36	×	
もんだい 問題 12	×		もんだい 問題 37	×	
もんだい 問題 13	×		もんだい 問題 38	×	
もんだい 問題 14	×		もんだい 問題 39	○	
もんだい 問題 15	×		もんだい 問題 40	○	
もんだい 問題 16	○		もんだい 問題 41	×	
もんだい 問題 17	○		もんだい 問題 42	×	
もんだい 問題 18	○		もんだい 問題 43	×	
もんだい 問題 19	○		もんだい 問題 44	○	
もんだい 問題 20	○		もんだい 問題 45	○	
もんだい 問題 21	○		もんだい 問題 46	○	
もんだい 問題 22	○		もんだい 問題 47	×	
もんだい 問題 23	○		もんだい 問題 48	○	
もんだい 問題 24	○		もんだい 問題 49	×	
もんだい 問題 25	○		もんだい 問題 50	○	

☆見直しのポイント

不正解だった問題やわからなかった問題は、学科教本にマークし、後で暗記できる状態(明日になると忘れてしまいますので・・・)にしておきましょう。→問題で覚えると、文章などが変わるとわからなくなります。